



お寺で結婚式

新潟市西蒲区巻 柿崎 麦^{ばく}さん(31歳)・知世^{ともよ}さん(27歳)

昨春秋、妙光寺本堂で結婚式を挙げた2人。7年前に麦さんの妹が妙光寺で挙式し、自分のときもお寺でと思ってきた。「一般的な式場だと限られた招待客しか来られませんか。ここなら開放的で誰が来ても、自由に見てもらえます。この日も僕のダンスの教え子の小中学生や、彼女の職場の先輩方も来てくれて100人にもなりました。」と麦さん。

知世さんは「最初は戸惑いました。でも和装にしたかったし、妙光寺は自然の光が一杯で明るい雰囲気。気が入ったので賛成しました。ところが両親が亡くなってから、親代わりをしてくれている祖父母が反対でした。お寺は法事や葬式する所で辛気臭い。普通の式場にしてくれと言われてしまいました。」

一人っ子で両親のいない知世さんの結婚に、76歳の祖父は慎重だった。しかも麦さんの仕事は、聞いたこともないようなヒップホップダンスの講師。麦さんは当初、会ってももらえなかった。(2ページに続く)

妙^{たえ}の光^{ひかり}

復刊102号



行事案内



春のお彼岸中日法要

3月21日(水)祝

◆午前10時半 安穏廟法要
11時 春季彼岸法要…本堂
12時 おとき(当日受付)
午後1時 法話…大広間
お彼岸は春秋2回、陽気も良くなり昼夜の時間が同じになるこの日、心の偏りをなくして仏様の教えを修行しましょうという古くからの行事です。どうぞ皆さんでお出かけください。



はん だいえ
ご判さま「お大会」

ちこ
お稚児さん
募集中!

4月29日(日)

◆午前8時半受付開始
江戸時代からの伝統行事。花と緑の境内を雅楽の先導でお練りの行列が続きます。お気軽にお参りください。時間等、詳細は別紙「ご妙判」お大会のご案内をご覧ください。



連続「浄土講座」

◆第4回 4月15日(日) 午後1時30分
講師：浜 ゆりこさん
●特別企画 5月27日(日) 午後2時
金子みすゞの心をうたう ～ちひろコンサート～
◆第5回 6月24日(日) 午後1時30分
講師：内藤いづみさん

※詳細は別紙ご案内チラシをご覧ください。

春の一日研修

6月2日(土)

◆午前9時～午後3時30分 参加費4,000円
申込締め切り 5月28日
数珠の持ち方からお経の読み方まで。初心者と複数回参加者をクラス分けするので、どなたでも心配なく参加いただけます。



しんぎょうかい

月例信行会

4月1日、5月6日、6月3日(毎月第一日曜日)

◆午前7時～9時
◆会費 1,000円(各自さい銭箱へお願いします)
お参り、法話、作務、朝粥の朝食、コーヒータム等があります。予約申込み不用。当日直接お寺へお越し下さい。



月例ボランティア 毎月15日

4月15日(日)、5月15日(火)、6月15日(金)

◆午前9時～11時半 午後1時～3時
境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越し下さい。昼食はご持参願います。

お寺でヨガ

4月19日、5月17日、6月21日(毎月第3木日曜日)

◆午後2時～3時15分
◆参加費 一回700円
●持ち物 ヨガマット、もしくはバスタオル
●講師 ノリコさん
どなたでも参加できますが、予約制です。その都度電話での連絡をお願いします。



あ と が き

『妙の光』が、ついに全面カラー化いたしました! 幸い印刷技術発展のおかげで、白黒と代金は変わらないとのこと。技術の発展に感謝です。なお「寺庭から」は、「(角田浜の)渚から」に発展させていただきました。これからも変わるものと変わらないものを大切に、妙光寺に関わる皆さんを結ぶ寺報になるよう新住職とともに努力したいと存じます。ご意見ご感想をお寄せください。(新倉理恵子)

新潟市西蒲区巻 柿崎 麦さん(31歳)・知世さん(27歳)

頑張り屋の2人

麦さんは高校卒業後、洋菓子作りを習得してパティシエになった。そのころ画家だった父が亡くなった。父は今『安穩廟』に眠っている。中学時代からやってきたダンスは中断して、パティシエの仕事に打ち込むことにした。ところがある時、久しぶりに踊っている姿が偶然東京のプロダクションの目にとまった。スカウトされて、プロのダンサーになった。現在は週2日間東京で、4日間を新潟で、小中学生のダンス指導に当たる。新潟にいる4日のうちの3日間は、日本酒の酒蔵でアルバイトをしている。

社で現場監督をしていた父を交通事故で失った。母は知世さんとともに、妙光寺に近い旧西川町の実家に戻った。祖父はその時から、父親代わりだった。知世さんは、短大を出て保育士になり就職した。だが、その直後に母親がガンで逝ってしまった。今は7年目のベテラン保育士として、明るく爽やかな笑顔で園児たちに接する毎日だ。

そんな中、麦さんが上京の際に車を置いたため、知世さんの祖父が営む駅に近い駐車場を借りた。麦さんは仕事用に染めていた髪の毛を隠すために黒毛のカツラをかぶり、支払いの時には立ち話を心掛けた。言葉を交わすうちに、知世さんの祖父が絵が好きなのもわかり、麦さんの父が画家だったことも話題になった。酒蔵で働いていることも、気に入ってもらえた。すっかり打ち解けて、その年の暮れには一緒に食事までする間柄になった。

式当日は墓参りから

台風の襲来で結婚式前後は悪天候だったが、当日は穏やかな秋晴れになった。支度中の控室を、知世さんの職場の同僚や友人たちがのぞきに来る。そんな自由な開放感が緊張をほぐした。式に先立ち、麦さんの父の墓前に報告。こうして心から安心して落ち着いた気持ちで式に臨むことが出来た。その表情が写真に表れていると、後日開いた友人たちとのパーティーの席で皆さんに言われて嬉しかったと言う。

「式場のことは私たちが押し通したのですが、当日まで納得しなかった祖父母も結果的にとても喜んで、今では掌を返したように、妙光寺で良い



式ができて、良かった良かった」とずっと言っています。」

妙光寺を知り尽くしたカメラマンの増井さんが写真撮影し、その紹介で着付けの方は麦さんの妹の式と同じ方だった。そんな色々な縁がとても有難かったと知世さんは語る。

これからも、いつも2人で

今の心配は、近くで別々に暮らすようになった祖父母のこと。時々電話をし、顔を見に行く。ダンス講師は生徒が来なければ成り立たない仕事だ。いずれはまた洋菓子作りに戻って、この町で2人で小さな喫茶店を開きたいと考えている。その前に早く家族が増えて欲しいと思っていますと、こやかに語ってくれた。(院首記)

安 穩

小川良恵

お勤めに四苦八苦

私はといえば、昨年11月に住職を交代してから、まだまだ慣れないお勤めに四苦八苦しております。ことに法事では、ずっと院首の隣で読経してきて、所作や式次第などは頭に入っているつもりでした。でも、いざ自分が導師を勤めるとなると、なかなか滑らかにはいかないことが分かりました。自分の意識は、やはり導師の目線で動いていなかったことに、気づいたのです。あくまで、協導師としての意識だったと思い知らされました。常に色々な視点、自分が実際に置かれていない立場から物事を見ることは、責任者である住職にとってかせない技能です。これから心掛けていきたいと思います。

相手の視点で

——社交ダンスのお話から

先日東京の檀徒さんのお通夜で、興味深い話を伺いました。喪主の娘さん夫婦

妙光寺のある角田浜は、雪の少ない新潟市の中でもとりわけ積雪のない地域です。しかし今年の寒波では例年になく積りました。私も生まれ育って30数年、腰まである大雪は初めての経験でした。駐車場の大きな松の木が1本倒れるなどの被害はありましたが、人的被害はなくほつとしております。院首夫妻も1週間のお休みを頂き、退任記念に頂いた旅行券で休暇を満喫してきたようです。ありがとございました。

が社交ダンスのプロをなさっておられました。社交ダンスは男女ペアで踊るので、日本人は照れくさいイメージを抱きがちです。けれど実際は、手を触れ合い、息を合わせて踊るダンスは、コミュニケーションの手段として非常に有用だそうで、長年ペアを組んで踊っている娘さん夫婦は、手を握っただけで、その日お互いの体調がすぐに分かるそうです。一人では踊れませんから、ペア相手への気遣いも生まれます。子どものレッスンでは、男の子が小さな女の子が踊りやすいよう、自主的に背中を丸めて踊ることもあるそうです。自然に相手の視点で考えるようになるのです。

ダンスと宗教

そして、ダンスは表現方法のひとつでもあります。自己の内面と向き合い、それをどのように表に発散させていくのか。呼吸を整え、自分の身体を観察して動かす。どこか、瞑想やヨガにも通じるところがあるのではないのでしょうか。そもそもダンスの起源の一つは、宗教儀式です。日本にも、神楽や踊り念仏、盆踊り等の宗教とつながるダンスがあります。

妙光寺ではヨガ教室や瞑想を行っています。……とそんなことも考えてしまいました。皆さん、やはり照れくさいのでしょうか。





雪の重みで松の大木が倒れました。幸い車のいない駐車場に倒れたので直接の被害はありません。処理をお願いした業者の話では、樹齢170年くらいとのことでした。

◆雪害

1月12日、一夜で80センチと近年にない大雪でした。葬儀と法事の予定もあって、境内は朝6時前から手作業で除雪しましたが、道路の除雪車が来ません。

急きょ地元の大滝総代さんが畑のトラクターで道路を除雪。普段は自宅から畑のトラクターまで歩いて20分の距離を、雪の中3時間かかってたどり着いたそうです。大滝さんありがとうございました。



墓地でも斜面の木が根ごと滑り落ちました。



山門屋根の軒先が雪の重みで壊れました。老朽化もあると思われ、総点検が必要です。

◆厄除け祈願祭

2月2、3日厄除け祈願祭に2日間で46人が申し込み、祖師堂でお払いを受けました。



法要の後、大広間でお汁粉を食べながら歓談。

◆春の息吹

昨年秋から荒天続きでしたが、春は確実に近づきつばみの桜が開くのも間近です。



梅の開花もうすぐです。



寺のうごき 冬



年末年始

◆正月

元旦は本堂にお参りして、住職に新年のご挨拶。法事の日程打ち合わせや、朝ご祈祷した星祭のお札をいただきます。



おせち料理もあって、順番にテーブルを囲んで話が花が咲きます。



上段の間では恒例となった、妙光寺お茶クラブの皆さんによるお茶席が開かれました。どなたでも気軽に飲めると大好評です。

◆除夜の鐘

大晦日の日中は悪天候でしたが、夜10時過ぎから回復して150名を超す人たちが除夜の鐘を撞きました。子どもを中心に若い家族連れの多いのが近年の特徴です。



本堂にお参りして鐘を撞き、甘酒やコンニャクで体を温めました。



境内では皆さんが持ち込んだ古いお札やしめ縄を、読経の中でお焚き上げしました。



Q 緊急の場合など、お寺への電話は いつしても良いのですか？

妙光寺は年中無休・24 時間体制ですので、いつでもお電話ください。留守にすることはありません。

ことにご不幸（葬式）はいつになるか、誰も予想出来ないものです。最近ではお寺に気を使って、深夜を避けてご連絡下さることも多くなりましたが、大丈夫です。電話連絡は何時でも構いません。そのうえで極力早めに枕経に伺います。ただしこの場合の電話連絡は葬儀社任せではなく、必ず親族の方からおかけ下さい。

急ぎの要件でないときは、原則は曜日を問わず午前 9 時から午後 4 時までの間をお願いします。事務担当者が対応します。それ以外の時間帯でも、基本的には誰かしら電話番がおりますが、朝のお勤め中の場合などは人手が足りなくなります。また電話番号は一つですが回線が 2 本あります。そのため、1 人で対応しているとすぐには出られないこともあります。ご了承下さい。

「こんなこと聞いては失礼では」なんて心配は無用です。お気軽に何でもお問い合わせてください。



誌上法話

小川良恵

『妙法蓮華経』という お経について

私たち日蓮宗でお読みしているお経は『法華経』。正式には『妙法蓮華経』と言います。「妙法」とは、他にたとえようも無いほどの素晴らしいものということです。「蓮華」はハスの花のこと。泥水の中にある美しい花を咲かせることから、仏教の教えを象徴するものとして尊ばれてきました。つまり『妙法蓮華経』とは、「美しい蓮華のような仏教の素晴らしい教え」という意味になります。

これから、この誌上法話の頁で、『法華経』について一章ずつお話していく予定です。

『法華経』の成立と翻訳

『法華経』はお釈迦様の故郷インドで紀元前に生まれたお経ですが、その成立は今もよくわかっていません。元々は、サンスクリット語で書かれていたものが、中国へ仏教が伝わる過程で翻訳されました。各国で信仰を集め、モンゴルやチベット、朝鮮語にも翻訳されたようです。中国語では「六訳三存」、つまり六つの訳があるうちの三つが現存していると言われています。そのなかで今日、私たちがお読みしているのは、一番の名訳と名高い鳩摩羅什訳になります。

『法華経』を訳した僧侶——鳩摩羅什

鳩摩羅什は亀茲国、今で言うウイグル地域で、生まれました。父はインドの商人、母は亀茲国の王の妹と言われています。当時の亀茲国は中央アジアの

貿易国として栄えており、鳩摩羅什はサンスクリット語、亀茲国の言葉、中国語の他にも 7 か国語を話せたと言われています。そして生涯に三百巻のお経を翻訳しました。

7 歳で出家、9 歳からインドまで赴き仏教を学び、瞬く間にその思想を取得して行きました。当時の中国は数多くの国が乱立し、各々が覇権を争っており、戦乱の中で多くの人が亡くなり、人口は 3 分の 1 にまで減ったと言われています。鳩摩羅什もまたその才覚を見込んだ諸侯によって、故郷の亀茲国を滅ぼされ、捕虜として捕らえられてしまいます。

10 数年、後涼に幽閉されていましたが、鳩摩羅什の存在を知った後秦の皇帝により、後涼は討たれ、首都の長安に招かれます。後秦では、鳩摩羅什の為に長安大寺を建立し、お経の翻訳が始まりました。鳩摩羅什を慕って中国全土から人々が集まり、『妙法蓮華経』の翻訳には二千人もの人々が関わったといわれています。

鳩摩羅什を記した伝記では「もし翻訳に誤りが無ければ、火葬後も舌が残るだろう」と遺言を残し、実際に舌が焼け残ったとも記されています。鳩摩羅什の『法華経』翻訳への強い意志が感じられる逸話です。戦乱の時代だったからこそ生まれた強い信仰が、鳩摩羅什の熱意を生んだのでしょう。

鳩摩羅什が翻訳した『法華経』は全部で 28 品、つまり 28 の章から構成されています。今回は、その第 1 章をご紹介します。

法灯継承式は、こうして中継された

二〇一七年十一月十八日、妙光寺の「法灯継承式」は

本堂から月岡温泉ホテル『泉慶』に生中継されました。

感動的だった中継を実現した技術スタッフの皆さんに、お話をうかがいました

Q 最初に、皆さんと妙光寺のご縁を聞かせてください。

名和 私の母が先々代住職の次女（院首の姉）で、新住職と私はいとこ同士になります。数年前から、妙光寺のパソコンシステムを作る手伝いをしてきました。今は父も母も亡くなつて、安穩廟に眠っています。妙光寺とのご縁は、いわば運命ですね。

坂牧 私は二〇〇六年に『新トキーヨー人の選択』という番組の取材で、妙光寺にうかがったのが最初です。その時、大

滝さんの茄子漬けを食べてしまい、あまりの美味しさに感動して、ご縁ができてしまいました。翌年のゲストが藤田弓子さんだったので「手伝つてほしい」と頼まれて、それからうかがえる時は「送り盆」をお手伝いするようになりました。

田辺 僕は友人と一緒に、コンピュータ関係の会社をやっています。数年前に霊園経営の会社から管理システムを作つてほしいと頼まれて葬送業界と関わるようになり、今はお墓を考えるHP『一墓一会』を運営しています。妙光寺の安

穩廟は全国的に有名です。自然に名前を聞くようになって、妻が巻出身なので「一回話を聞いてみたい」と妙光寺を訪ねたのが二〇一六年の春でした。そして、やはり「手伝つてほしい」と頼まれて、その夏から「送り盆」を手伝うようになりました。

Q 今回の中継は、名和さんがやりた

名和 違いますよう。（笑）4年位前に院首から中継を頼まれたんです。「本堂では参加者が入りきれない。別な会場



名和国光さん
大手ITメーカー技術者。院首の甥。安穩会員。



坂牧麻里さん
NHKプロデューサー。「送り盆」スタッフ。



田辺直輝さん
ITベンチャー企業勤務。「送り盆」スタッフ。

Q 妙光寺から月岡温泉への中継は、技術的にはどうやったんですか？

名和 映像の画質というのは、いろいろ種類があります。一般的なものはSDというんですが、画質が悪いので本番の大きいスクリーンでは見栄えが良くありません。HD——いわゆるハイビジョンでないといふんですね。そのためには、お寺とホテル『泉慶』の中継回線を増やさなくてはならない。『泉慶』にお願

いしても断られ、とても困りました。結局お寺の回線を1本増やし、ホテルの方では妙光寺の防犯カメラを担当している（株）キョーシヨーが、中継の受信を引き受けてくれました。でも（株）キョーシヨーの塩入社長にとつても初めての経験で、試行錯誤されたと聞いています。

Q 昨年夏からは、田辺さんも「チーム名和」に加わりましたね。

田辺 一昨年夏に、右も左もわからない状態で「送り盆」スタッフをやりました。僕はどちらかといえば人見知りする方なんです。最初から皆さんに「田辺さん」と声をかけていただいて、本当に楽しく過ごしました。それに20代のスタッフもいて、お寺に若い人が来るのかという驚きもありました。そうしたら帰り際に前住職が「田辺さんって、ITだよな。中継やつてる甥を紹介するから…」と名和さんを紹介されたんです。そして昨年夏から、本格的に中継のお手伝いをするようになりました。

Q そこに坂牧さんが加わったのは、いつですか？

坂牧 以前から、中継のお手伝いをしますよとお伝えしていましたが、昨年夏の「送り盆」の時、本格的に話を詰めました。本番の3カ月前です。その際3つお願いしました。まず台本を作ること、そしてカメラマンを入れた技術打ち合わせをすること、それからカメラリハーサ

ルをすることです。さらに、カメラは最低でも3台、できれば4台ほしいとお願いしました。

Q 立派な台本がありましたよね？

坂牧 最初は名和さんが手書きした図がありました。中継は「位置」が大切です。決められた位置にその人がいないと、姿が映らないからです。10月9日にカメラマンの伊藤さんも一緒に妙光寺で打ち合わせをしたときには、継承式スタッフの若い石田さんが素晴らしい台本を作ってくれていました。「シーン0」から「シーン26」までの画像を入れた、絵コンテでNHKでも作っていないくらいの素晴らしい台本です。

Q リハーサルの中でもアイデアが出ていましたね？

坂牧 やつてみてわかることもあるんです。継承式なので、住職親子と一緒に映る映像が大切だと気づきました。さらに、「奉告文」の場面では内容に合った映像を伝えたいと思い、リハーサル後に文章をいただきました。

Q 本堂にふだん見ているテレビの映像のようでしたが、大変ですね。

名和 カメラが複数となると映像の切り替え機が必要です。カメラ2台用の切り替え機は準備できたんですけど4台は大変で、HD1回線とSD3回線ではだめ

かと言ってみんですが、どうしてもHD4回線ほしいということになって…

坂牧 すみません。そこはちょっと妥協できませんでしたね、やっぱり。

名和 そういうわけで、なんとか頑張つて4回線入力できる映像切り替え機を用意しました。ところがそれがまた…（笑）

坂牧 10月9日の打ち合わせで、カメラマンから「仏様をずっと映したいので、カメラは5台ほしい。」という提案があつて、確かにその方が魅力的なので、最終的に5回線入力するという事態になりました…

名和 4回線しかありませんから、結局私が中継の途中で1本はずして、そつと付け替えました。もちろん「泉慶」チームの田辺さんや塩入さんには内緒です。途中で受信できなくなる危険性があるので、嫌だと言われるに決まっていますから。（笑）

Q ギリギリ綱渡りの中継だったんですね？

坂牧 そうなんです。さらに、当日も雨が降つて、山門から始めようと決まっていたのが中継開始の10分前でしたから、バタバタでした。

田辺 僕は『泉慶』にいて、無事に中継ができるのか大変なプレッシャーでした。塩入さんも、前日は一睡もできなかったそうです。本堂と連絡を取るのと、直前まで名和さんたちがバタバタしているのもわかる。僕と塩入さんは

ドキドキしているけれど、『泉慶』会場のスタッフとお客様は、時間になれば映像が来ると信じきっているわけです。しかも妙光寺では僕は新参者なのに、映像に関しては「指示出して」と言われて、見渡すと他にいないわけですから「そうか僕がやるのか。うまくいかなかったらどうしよう」と不安で不安で…無事に始まり、無事に終わったときは、本当にホッとしました。

Q 中継は大成功でしたが、振り返つていかがですか？

坂牧 いろいろ大変でしたが、とても楽しかったんです。カメラマンや音響の山貝さんたちとアイデアや力を出し合つて、いいチームでした。

名和 私は4年がかりでしたから、終わつてとにかくホッとしています。

田辺 泉慶で見ていて、本堂では遠目には見られないところも、中継ではいいところをしっかりと見られるんだと思いました。名和さんがDVDを制作してくれましたから、本堂にいた方にこそ映像を見てほしいと思います。『泉慶』会場でも、皆さんが中継に合わせてお経を読んではいました。一体感がありました。

名和、坂牧 えっ！…一緒にお経を！そういう話を聞くと、本当に嬉しいですよ！お疲れさまでした。ありがとうござい



中継会場の大スクリーンに見入る300人の参加者

『妙の光』全ページカラー化

お気づきのように本誌『妙の光』が全ページカラーになりました。住職交代を機に内容の見直しを相談した際「最近の印刷技術では白黒もカラーも料金は同じ。ページ数も印刷と紙の裁断の関係上8ページが基本になるので、従来の12ページも16ページと価格差がほぼない」と知りました。そこで従来通り12ページを基本に、オールカラーとしました。構成を一部変更しましたが、確定でなく今後試行錯誤で参ります。

本誌は寺と檀信徒を結ぶパイプとして、年4回の発行を継続します。編集を新倉夫妻、デザインを加茂さん、この方々が引き続きボランティアで担当してください。ありがたいことです。

ホームページ改定作業中

住職交代によりHPの全面改訂が必要です。従来のHPは完成度が高く、法灯継承式の繁忙で昨年から更新が出来ていないのに、12月と1月

『浄土講座』

の2か月間で1200件ものアクセスがありました。早急な改定が必要です。膨大な作業量で時間を要します。フェイスブックやツイッターといった、新しい通信方法への対応も求められています。こちらも住職の従兄と若い専門家の皆さんで現在鋭意検討中です。



『安穩廟』開設30周年

平成元年8月に開設した『安穩廟』が、今年30周年を迎えます。8月25日の送り盆では記念企画を準備中です。ご期待ください。

『安穩廟』は現在空きがないのですが、順番待ちの方が10件近くおられます。若干の増設も含めて検討中です。で、お問合せください。

新体制

今年の大雪で被害がありました。広い境内の維持管理は大変です。一方で法事の減少など、多くのお寺の運営は厳しいものがあります。妙光寺は熱心な皆さんに支えられ比較的恵まれています。6月には3年に一度の役員改選もあり、新住職を中心にした新体制で相談しつつ進めてまいります。

『法灯継承式』DVD

昨年11月の『法灯継承式』の映像が、パソコンをなさる方はYouTubeで「角田山妙光寺」を検索すると、3本の映像が常時無料で見られます。DVDは1枚2000円でお分けしています。すでにお申し出ください。



身延山・七面山の団体参拝

総本山身延山久遠寺への団体参拝を9月29日(土)〜10月1日(月)に計画しました。次号でご案内しますので、ご予定ください。(院首記)

新連載

渚から

小川なぎさ

「休養の年に」

法灯継承式を終えて

昨年秋の法燈継承式では檀信徒・会員の皆様に多大なご協力をいただき、無事住職の交代が終わりました。感謝の気持ちでいっぱいです。引退した院首さんは、のんびりどころか次なる仕事に邁進中。「浄土講座」と「送り盆」は今後も担当しますし、時々は院首指名の法事がある、ありがたい限りです。

私はといえば、まったく変わらない生活を送りながらも、どことなく気持ちがちゅうぶらりんで少し苦しんでいます。働ける限りはリョウケイの補佐をしようとは思っているのですが、そろそろ昔の友人たちが定年退職となり始め、自由に自分の生活を楽しんでいることなどを聞くと、心がざわめくのです。

八方塞がり？

数年前お寺を1年間手伝って下さった戸田上人のお母さんは私の大切な先輩です。伝統ある遠寿院の寺庭を守って来た彼女は、誰にも話せない気持ちを話せるお寺仲間です。私より年長ですが、会うと「死ぬまで働く!」と言っています。だから私ももう10年くらいは働けるだろうと思っています。いや健康ならば20年は働ける、という覚悟はつきましたが、継承式以来気力が衰えてしまいました。なんとかしなければなり

ません。

もさもさと降り続く雪を見ながら、考えています。趣味もなく、ショッピングでストレス解消も苦手、好きな料理も毎日3回となると億劫だし、酒が飲めるわけじゃなし、読書や映画は気分転換というより習慣みたいなものだし。八方塞りだわ。旅に出て数日過ごしてもこの憂鬱な気分は治らなかったから、もっと長い時間が必要なのかも?と試してみたり。いくら考えても落ち込むばかりです。何をすれば気力を取り戻すことができるのでしょうか?

休養の年にします

だから、今年平成30年は休養の年にしようと考えています。あと20年働くための時間です。もちろんお仕事はしますが、健康診断や散歩や旅行や出来る限り好き勝手に過ごしてみようかな。……出来ないと思うけど。

新しい住職の体制が整うまでは、まだまだ時間がかかります。住職が代わっても1年の行事は変わらずに続きます。院首さんは色々とすべてのことに行き届く人だったので、新体制ではお寺の運営の中で、もしかしたら失敗やご迷惑をおかけすることもあるかもしれません。どうぞそんな時は遠慮なくご意見をいただければと思います。今年度もよろしくお願いいたします。